

研究種目：基盤研究 (C)
研究期間：2007～2010
課題番号：19530176
研究課題名 (和文) 初期近代グレート・ブリテンにおける「制度化された信用」の形成と諸問題
研究課題名 (英文) The making of 'institutional credit' in early modern Britain and its issues.
研究代表者
伊藤 誠一郎 (ITO SEIICHIRO)
大月短期大学・経済科・教授
研究者番号：20255582

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学 経済学説・経済思想

キーワード：信用、17世紀、イングランド、初期近代、銀行史、土地登記、利子論争

1. 研究計画の概要

17世紀イングランドの信用制度についての議論を、人々は「信用」になにを期待していたのか、そこでは経済的要因よりは、むしろ評判や信頼性など社会・道徳的要因が重要な役割を果たしていたのではないか、という問題意識のもと、この時期無数にあった銀行案を中心に調査を進める。

具体的な目標としては、平成17年度および18年度にオーストラリア経済思想史学会で報告した、それぞれ名誉革命期までの17世紀の諸銀行案についての論考と、名誉革命からイングランド銀行設立までの銀行案についての論考を英文雑誌に投稿すべくまとめる。また、それと同時に時代を追って、その後の銀行案をめぐる論争を調査し、英語論文にまとめ、学会報告、英文雑誌投稿をめざす。

2. 研究の進捗状況

上記の英文雑誌投稿を目指した二つの論文のうち前者は *European Journal of History of Economic Thought* の2011年8月号に掲載が決まった。それ以外については、研究の進展の中で、名誉革命以前の時期のイングランドの信用についての議論をする際、提案される銀行が貸付をするときに引き受ける担保の質を向上することを目的とした不動産登記についての議論が不可分であったことを見出し、このことをテーマとした論文を書き、平成20年にヨーロッパ経済思想史学会で報告した。また、1668年ころに起きた利子率をめぐる論争も、実は信用制度の議論と密接にかかわっていることを見出し、このことを平成20年にオーストラリア経済思想史学会で報告した。平成21年度は上記

両論文を英文学術誌への投稿にむけて改良し、学会等で報告をした。その一方で、名誉革命後の土地銀行論争の研究も、上記の土地登記、利子率に関する議論を踏まえてさらに進展させ、22年3月には国内の研究会で、その成果の一部を報告した。

また、本研究がこれまでの近接テーマの研究とくらべて異なるのは、ここ数年の一次資料の電子化によって、これまでなかなか入手が困難であった資料(議会・政府資料、17世紀の刊行文献等)を豊富に使うことができたことと、この科学研究費を利用することによっていまなお直接所蔵先に行かなければ閲覧不可能な多くの手稿類を十分に利用できたことである。また、英文論文作成に当たっては、やはり科研費を利用することによって、より専門的で質の良い英語校閲を受けることができた。このことは少なからず、英文専門誌への掲載において効果があったと思われる。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

上記のように、英文専門誌に論文を一本掲載することが決定したほか、同時並行的に複数本の論文の執筆、修正、学会報告をすすめてきた。当初想定した内容よりは、より17世紀イングランドの信用をめぐる議論の解釈を深めるかたちで、研究の進展がみられたと思える。

4. 今後の研究の推進方策

いま加筆・修正中の複数の論文を英文雑誌投稿、および本の出版を目指し、初期近代イングランドの銀行論争に関する体系的な議論をすすめていく。これは、今年度から新た

に始める科学研究費基盤研究(C)「初期近代イギリスにおける「制度化された信用」とその論争的展開」(研究代表者:伊藤)のなかで進めていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

- ① Seiichiro Ito, 'The making of institutional credit in England, 1600-1688', *European Journal of the History of Economic Thought*, vol.18:3, 2011, August.(査読あり)

〔学会発表〕(計7件)

- ① Seiichiro Ito, 'What was the issue in the land-bank controversy?', リカードウ研究会(第19回)、明治大学、2010年3月12日。
- ② 伊藤誠一郎「『貿易の嫉妬』にみるリアリズム - 経済ナショナリズムと国家理性論の再検討 -」、社会思想史学会全国大会、神戸大学、2009年10月31日。
- ③ Seiichiro Ito, 'Law Reform, Registration and Credit in Seventeenth century England', 22th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, the Fremantle Campus of The University of Notre Dame, Fremantle, Australia, 2009年7月16日。
- ④ Seiichiro Ito, 'Charles Davenant on Richelieu', 2nd Joint Conference ESHET-JSHET, Kyoto University, Japan, 2009年3月24日。
- ⑤ Seiichiro Ito, 'Interest controversy in its context', 21th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, University of Western Sydney, Sydney, Australia, 2008年7月10日。
- ⑥ Seiichiro Ito, 'Registration and credit

in England 1660-1688', 12th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, University of Economics, Prague, Czech Republic, 2008年5月17日。

- ⑦ Seiichiro Ito, 'Continuity and discontinuity-the early stage of the land-bank controversy', 11th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Louis Pasteur University, Strasbourg, France, 2007年7月。

〔図書〕(計2件)

- ① [共訳]I. ホント、田中秀夫監訳『貿易の嫉妬』昭和堂、pp. 84-114(伊藤担当箇所)、2009年5月。
- ② 伊藤誠一郎「レトリックを超えて-近代初期イングランドの古典修辞学と政治算術-」田中秀夫編『啓蒙のエピステーメーと経済学の生誕』京都大学学術出版会、pp. 99-128、2008年11月。